



〈旧校地から移植した「大松」。高女時代からの学校のシンボル〉



発行年月日  
令和5年5月1日発行

発行所  
長野県野沢南高同窓会  
長野県佐久市原86-1  
TEL (0267) 63-6646

責任者 中島 瑞枝  
印刷所 ㈱サラト

### 全ての

### 出合いに感謝

前会長 中島 瑞枝  
(高13)



新緑の候、お蔭様で新体制の下、活気に満ちた活動が始まりました。

この度、私は会長を退任させて頂きました。花の香りをのせた風が15年間を手繰り寄せてくれます。先ずは同窓会用の事務室と事務局の立ち上げ。事務局長や副会長に恵まれ、活性化や抛り所に繋がっています。次は大事業への取組み。20年度佐久市中等教育を考える会、同20年度から現在まで「魅力ある南高校と統合新校づくり」懇話会、21年度から4年間100・60周年事業、R2年度から3年間110・70周年事業と続きました。皆様の絶大なご協力が好結果を残す原動力でした。決断を下す迷いや苦悩は常でしたが、決断した事をより良くする為の辛抱強い努力により、未曾有の大震災と重なった100周年も目標以上の成果を遂げました。3点目は楽しく学び合えるような会の運営「発展させる会」に多様な方とのグループ懇話会を設け、新企画の地域探訪・役員会時の研修会・コンサートは誰もが主役になれるようにと工夫しました。

### ご挨拶

新会長 長田 芳子  
(高29)



皆様には、日頃より野沢南高等学校同窓会活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。この度の役員改選に伴い、今年度より同窓会長の任を仰せつかりました長田芳子と申します。永年に亘り多大な実績を残されてきた中島瑞枝会長から引き継ぐという事で身の引き締まる思いで一杯です。これまで中島会長の母校に寄せる熱い思いと多くの同窓生の代表であるという重責の中、綿密に実行されてきた周年事業、

### 着任のご挨拶

校長 中村 信秋



同窓会の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より本校の教育活動に対しまして、物心両面にわたり心温まるご支援を賜り心より感謝申し上げます。私は今年度4月より、長きにわたる歴史と伝統を誇る野沢南高等学校の校長として着任致しました。中村信秋と申します。前任は上田東高等学校で教頭として勤めて参りました。同窓会員の皆様には、これから大変お世話になると存じますが、どうか宜しくお願ひ致します。ここ三年間は、パンデミックとの戦いに明け暮れ、またウクライナにおける非道な戦争も、早一年が過ぎたように感じました。そのような暗い世相を吹き飛ばすような、先日のWBC世界野球における侍ジャパンの三大大会振りの優勝は、私たち日本人に明るい話題を提供してくれました。また新型コロナウイルスへの我々の対応もこれまでの強い防疫体制から、一般的な病気として相対化

### ご挨拶

事務長 木村 毅彦

この度の人事異動によりまして本校の事務長として農政部農業政策課から転任してまいりました。

今回が初めての県立高校の勤務となります。加えて、当地を含め東信地域へ初めて赴任となることから、緊張感が増幅する中で、関係する皆さまからご教示やお力添えをいただければと存じます。

依然、感染症を巡って不透明な状況は一部見受けられるかと思いますが、全日制100周年の節目を昨年度迎えた本校において生徒が新たな取組を進めていくことのお手伝いを事務部門として連携できればと考えており、微力ではありますが、精一杯努めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

高校再編に関わる諸会議でのご発言等数々の素晴らしい取組みに副会長として圧倒される日々を過ごして参りました。同様な事はできませんが同窓会役員の皆様、同窓会員の皆様のお力添えを頂き、微力ではありますが、野沢南高校の為、生徒の為に力を尽くして参りたいと考えております。宜しくお願ひ申し上げます、新任の挨拶と致します。

するスタンスへと変化しています。コロナ前の日常が徐々に戻ってきて、「〇年ぶり」という報道の文字をよく見かけるようになりました。さて、ここ数年の長野県における高等学校の再編事業は新たな局面に差し掛かり、ここ佐久地区でも新校スタートに向けた準備が本格化してまいりました。時代の変化の中で、今年度も新入生を迎えた本校ですが、10余年の歴史はその変化の中でも決して変わることはなく、卒業生の皆様と現在の生徒、そして職員が一丸となってその伝統を守り続けることでしょうか。微力ながらその手助けをしてゆく所存でございます。

最後に、同窓生の皆様の益々の御活躍と御健勝を祈念申し上げますとともに、本校の教育活動に一層の御理解と御協力を賜りますよう、重ねてお願ひ申し上げます。



# 「南高と北高の統合新校」3・4年度の進捗状況

## 「新校の校地は現北高の場所」が決定するまでの経緯を中心に

両校関係者は「小海線沿線の最寄り駅から近くて広い場所に校地を」との一貫した願いの下検討を重ね「校地検討部会」に諮ってきた。しかし次の経緯により、理想的な私有地も、環境が良好の茨城牧場も取得不可となり、最終的に県は、「北高を校地に」の案を提示した。

★第1回校地検討部会 3年2月17日

★「佐久市の街づくりと関連させ、駅に近い広い場所を」の意見多数。

★第2回校地検討部会 3年3月16日

★「中込駅東側の広い私有地が規模校の為に最適。確保の方向で検討したい」との意見多数。

★第3回校地検討部会 3年4月27日

★第2回と同様「地域性や将来性を考慮し私有地の確保を」の要望。

★「私有地」県の購入は不可能。他団体等が購入の場合も農地法に触れるので不可能との回答。

★第4回校地検討部会 3年5月30日

★委員より県有地「返還の可否を早急に牧場に打診するように」の意見。

6月6日「同窓会再編検討委員会」が「現校地活用の課題等」について「校地・校舎の環境」「通学環境」「学習環境」の視点で協議。結果を基に、6月10日「語らいの会」で話題にした。

★第5回校地検討部会 3年7月29日

★検討済みの、中込駅と滑津駅から徒歩10分前後の広い私有地の確保を再度依頼。↓県より「良い場所だが、県は購入不可」との回答。

★第6回校地検討部会 3年10月28日

★長野支場の一角の返還について早く交渉して欲しい旨県へ依頼。

※4年1月19日 県教委次長より、両校同窓会長に「長野支場から返還不可」の回答ありと説明。

↓両校は牧場本部との交渉を依頼。

★第7回校地検討部会 4年2月22日

★「本部が返還不可と返答」報告。

↓委員より「大事な内容。懇話会でも協議したい」「県有地確保の交渉継続しつつ、並行して現校地の検討も必要等の意見。

「校地として茨城牧場が狙上」の記事が新聞に載り、多くの人の話題に。

★第8回校地検討部会 4年3月28日

★県より「長野支場の使用は不可。現校地の検討に入りたい」と提案。

↓「佐久の拠点校をつくる」との県の強い意思が感じられない。資料を添え、明確な説明を。

★第9回校地検討部会 4年4月19日

★県「要望に応え、今後は懇話会でも校地の意見交換をする」回答。

↓委員より「小諸と伊那の『校地選定の視点』について」質問。

↓佐久も視点を決めることに決定。

★第10回校地検討部会 4年6月2日

★長野支場長から土地利用の現状説明を受け、委員は「県有地返還は不可をやむを得ず受入れた。

↓現校地は、広さと最寄り駅からの利便性が課題が浮き彫り。

★第11回校地検討部会 4年7月25日

★前回までの意見を基に、県が校地選定の視点を作成・提案。

★第12回校地検討部会 4年8月25日

★「校地検討視点」の意見交換。↓「佐久平からのアクセス」不要、「校地拡張の可能性」等の意見。

★第13回校地検討部会・懇話会 11月14日

★視点を基に県が検討した南高と北高それぞれの優位性の案を提示。

↓資料に誤りが多く、南高側より訂正を要望。(距離が北高経由や南高周辺の道路欠損など)

※南高同窓会から、実測や現地見聞の事実を示し、資料の訂正等、「要望書」にして推進室へ提出。

中込駅からの通学路の距離や安全性の2校の差について強調。

★「校地検討部会」本会が最終。

★第14回 懇話会 4年12月15日

★県は意見や要望を少し反映し資料と検討結果を訂正。「通学の安全性や佐久平駅からのアクセス不要」論は受け入れず「総合的にみて校地は北高にする」と提案。

↓提案に対して次の意見が出た。

◎「新校は大規模校。朝の中込駅利用の通学生は300人以上になること必至。朝、交通量の多い国道を自転車で通学生は1km以上の列で走行し危険大。改善策はあるのか」

◎「南高は文教的で落ち着いた環境。新校も南高のような環境に」

◎「国道に囲まれることは、学校環境として大事な視点ではない」

※5年3月10日の県議会にて「北高が佐久新校の校地」と承認された。

★【懇話会での協議】

☆2年度末より校地の検討と並行し「目指す学校像」「学校教育目標」等の検討も継続している。

☆5年度も「懇話会」継続。設置課程・学科、教育課程、校舎・施設・設備、校名、統合方法、校歌・校章などが検討される。

## 新校の校地「意見一本化を」野沢北と南高再編の協議会

野沢北高校と野沢南高校の再編について両校の同窓会が話し合う「2校同窓会連絡協議会」の5回目の会合は22日開いた。今回の議題は、新校の「校地」と県教委への要望書の提出など。校地については5月に開いた「校地検討部会」で出た意見も参考に掲げながら、「今後実際に現地を歩く機会も設けるなど、候補地について協議会として意見を一本化したい」とした。

また、両同窓会長名で県教委へ要望書の提出を計画。席上でも、新校を卓越した学びの拠点校とするこゝと個別最適な学びを支える施設設備や教育環境の整備▽交通の利便性に配慮した新地に創設することなどを盛り込んだ要望書が提示されたが、「今後さらに内容を精査し、正式な要望書として県教委に提出する」という。

今回の協議会は23日に野沢南高同窓会館で開く予定。

活発に意見が飛び交った22日の会合



(2021年7月2日 佐久市民新聞)

2校の同窓会は、定期的に連絡協議会を開催し「統合新校」についてその時その時の課題について検討し、協議結果を校地部会や懇話会などへ反映させたり、県への要望資料にしたりしている。

## 会報からの回想

中條 紀子 (高14)

若葉輝く心地良い季節に同窓会報70号が届きました。私は、毎号豊富な内容の同窓会報から母校や故郷、同窓生の皆様の様子を知ることができ、有難く楽しみに拝見しております。

第一面、中島会長のご挨拶に、沼津西高と野沢南高との海山交歓教育について、「昭和26年から10年間続いた」との一文があり驚きました。何故なら、37年卒業の私達の学年が最終だったのでは、と思えたからです。当時2年生の夏休みに、沼津西高生は南高に、南高生は沼津に集い、研修や体験学習をする全国でも珍しい交歓教育が行われていました。沼津西高は、千本浜海水浴場の松林の脇にある学校でした。

水着のなかった私は、近所の友達けい子ちゃんから水着を借りて行ったこと、広い砂浜の波打ち際に嬉々として遊んだこと、体育館に蒲団を敷いて寝泊まりした時の蒸し暑かったこと、登呂遺跡を見学したこと等が次々と浮かんできます。私達の学年がギリギリサーフで参加できたことを知り、更に幸せに思いました。コロナや戦争など気がかりな世の中ですが、60年前の高校時代が蘇ったひとときでした。



〈海山交歓教育 沼津にて〉

# 祝 創立全日制110周年・定時制70周年記念式典

令和4年10月29日

式典

9時15分～10時05分  
昇降口前の楓が秋の日差しに輝く佳き日、ご来賓や同窓生等が多数ご列席の下、式典が開催された。

〈吹奏楽部によるオープニング演奏〉



〈書道部による「繫」のステージバック〉  
開式を告げる春原副会長



校歌独唱  
浅野 晴さん  
(2年生)

ピアノ伴奏  
高梨竜馬さん  
(2年生)

【式辞】中島実行委員長は人格形成の大切さを語り、それを根幹に置いた教育例を挙げて歴史を辿り、新校でも知性の錬磨・人格形成・身心の鍛錬を根幹に置いて欲しいと結んだ。

井出校長は「清新堅実」の伝統精神を継承し、工夫努力している教育の例を紹介し、生徒に向けては、新しい社会を創造し牽引する存在であって欲しいと熱くエールを送った。

【県教委挨拶】教育長代理の小林雄一主任指導主事は歴史の学校関係者や地域への感謝を述べ、苦難にも思いを馳せた。生徒に向けてはこの節目を契機に、夢に向かい挑戦し続けるよう語った。

【祝辞】依田明善県議は2年度同窓会報一面の中島会長と井出校長の挨拶文から、二人の110周年を迎える決意や再編統合を意識した惜別の情と未来志向が伝わり、生徒には優秀で頑張り屋の先輩方の魂を大切にするようにと語った。

佐久市長祝辞は吉岡道明教育長が代読。県議活動10年間で最も心血を注いだことのひとつが、南高の多

部の制・単位制へ転換案を全面撤回させたこと。進行中の統合新校は、地域の発展にも繋げたい等、柳田市長の思いを伝えられた。

【生徒代表挨拶】3年生の渡邊陽樹さんはコロナ禍での学校生活を紹介します。成年年齢が18歳になった責任意識なども述べた。最後に、歴史と伝統のある南高で学んだことを發揮しつつ日々精進したいと、力強く語った。

## 講演

10時20分～12時00分

「一瞬の感動を人生のきっかけに」

(株)グローバルキャリア代表取締役

的場 亮 氏

『笑ってから幸せになれる』

顔の表情が人生の履歴書

冒頭、スクリーンに2枚の絵が映し出され「まちがいが探しの演習。相談していいよ」との講師のご助言にたちまち会場の空気が和らいだ。笑いも生じ、皆がより良い表情になった。的場先生は笑うことの大切さを実感させてから本題に入られた。

『自分で考えて判断する』

自主・自律を意識して身に付ける

「一瞬の感動を人生のきっかけに」とは「自分の可能性を見つけて人生を切り拓く」ということ。その為に必要な条件は「気付き」こと。気付く為には、一点に集中し、意識して観る「観察力」を磨くことが大事。

家の都合で大学中退やむなさに至った時、バイト経験がある大工になった。うまくいかず嫌になる時もあった。親方と自分の違いは何かを観察して技術の違いに気付き、技術を磨いたら、自分が変わった。

〈講演に聞き入るリモート参加の生徒〉



自分で気付

き、判断して取組めば、何時でも自分を変えられる。

『信念』

何故自転車に乗れるようになったの？「あの人のように」

など憧れの気持が挑戦を生



み、乗れるようになったのではないか。頑張り続ける要素の一つは「信念を持つこと」。「信念」は「憧れ」と「願望」によるところが大きい。これは、諦めないエネルギーとなり継続性を高められる。応援も頑張り繋がり、応援に気付けば「感謝」も生まれる。

『結果を変える為「心×技×体」で』

心の数字を高めたい

結果を変える為には、心の数字を高め、自分で自分の心を動かす技術を身に付けることが大事。心・技・体いずれかがマイナスの場合、掛け算をすれば答えはマイナスになる。さらに、「嫌なことがあった時それを断ち切る技術」を持ちたい。この状況で自分は何をすれば良いか自分に問うて頑張れば心の数字が高まる。

『感謝の気持ち』が、心を動かす

最後は、BGMと共に「浅田真央さんのオリンピックでのSP・その後の苦悩・気持ちを切り替えたフリー演技」と「周囲から、悪い子と言われる息子に対し「悪い子ではない」と言い切る親心が息子を変えた」解説付きの2画面が映し出され、会場は感動と涙の渦に包み込まれた。

★大切なことは、素直になること

★人にはタイミングがある

★「ありがとう」の数だけ人生は変わる。感謝を忘れない

★「大丈夫。お前は素晴らしい子だよ」と言い続けることが大事

など、貴重な示唆をいただいた。

## 講演をお聞きして

神部かほる (高2)

講師の的場亮氏は、19歳の時に関西大手進学塾に社会科専任講師として就職し、子ども達からの授業支持率は常に95%を超えておられた先生。その後32歳で起業。社会に出て活躍してきた「人生のレシピ」を題材にキャリア教育を軸とした講演会や研修会等を全国各地で実施されている。

前日に音響や画像等を3時間かけて念入りにチェックされ、最高の状態で当日を迎えられた。実体験を基に構成された講演に、聴衆は引き込まれていった。特に私の心に強く残っているのは、次のお言葉である。

演題「一瞬の感動を人生のきっかけに」とは「自分の可能性を見つけて人生を切り拓くこと」であり、それは「自分で努力して自分に備えること」。その必要条件是「気付き」と「観察力」である。自分自身と向き合い、自分の良さや可能性に気付く、「心×技×体」の数値を高めたい。それが自分を変えるきっかけになる。

お聞きして自分で自分を変えられることの大切さが甦って来た。

私は、高卒で就職した。仕事が嫌で嫌で仕方が無かった時先輩に「困難は今だけ。自分ができることを誰かの為に自分のペースで努力していけたら継続できるよ」と言われた。人は、応援された時、本気になれる。私は、こうして35年間仕事を全うできた。自分で自分の心を動かす技術、嫌な気持ちを断ち切る技術を持つことを得た当時を思いながら拝聴した。笑いあり、涙ありの情盛豊かな講演に、心より感謝申し上げたい。

前日準備

感謝とおもてなしの心が  
伝わるようにと願って

◎本会場への  
渡り廊下  
に「赤い絨毯」

◎生徒や先生  
方は午後から準備

紅白幕を張る生徒



準備ほぼ完了



準備ほぼ完了

◎リハーサル  
進行の確認  
画像や音響・教室  
への配信準備  
最高の状態を調整



影アナのリハーサルをする木下先生



音響調整に励む金山先生



◎華道部と同窓  
会装飾係が本  
会場・控室・  
廊下等を生花  
で飾る



来し方行く末

佐藤 三恵 (高14)

令和4年10月29日、周年記念式典に臨み、創立110・70年の道程を原点に立ち戻り回顧した。◇明治44年創立以来、地域、PTA、同窓会は、向学心に燃える生徒のため環境を整え、優秀な先生を集めた。先生方は専門性を生かし、生徒の学力の向上と人格の育成に心血を注がれた。「清新堅実」な校訓は受け継がれ、歩みを止めることなく、時代の変革、激動の波を乗り越えてきた。生徒、先生を核とし、地域、PTA、同窓会の温かい眼差しがあったからこそ道程であり、後年、存続の最大の危機を乗り越える礎となった。◇平成17年6月22日、突如、県教委は高校再編案を公表。本校を多摩制・単位制高校転換の「たたき台」とした。岩岡孝同窓会長、原田岸子事務局長、井出亮PTA会長、地

友達「ベヒシュタイン」への想い

有井 歩 (高66)

ベヒシュタインピアノとの出会いは、在学中のとある音楽授業の時でした。翌月発表予定の出し物を練習していた時に、音楽室後方に置かれ埃をかぶっているピアノに出会ったのを良く覚えています。そのピアノが、有名且つ貴重なベヒシュタインだと知ったのは、全面修復後間もなくのことでした。

4年度の記念事業

令和3年度に続き、4年度にも次の記念事業を実施した。

ベヒシュタインピアノの調律



〈9年ぶりの本格調律の様子〉

域、学校は、未来を担う子ども達のため「野沢南全日制・定時制を守り発展させる会」を立ち上げ、生徒会も署名活動、陳情、請願等に参加。県教委へ43,240筆の署名を提出。結論ありきの行政の手法に平成18年4月のプラン説明会では、義務教育関係者から「県教委は生徒の質問に誠実に応えて」と苦言を呈された程だった。平成19年6月、地域に合意のない再編案は取り下げられ「白紙撤回」となったのは周知の事実で、明日への堅固な一歩となった。◇迎えた創立100・60周年記念では、中島瑞枝周年記念事業実行委員長の下、「野沢南高百年史」として学校、PTA、同窓会により目的達成の記録が残され、母校に感謝した日々となった。◇今日、7年後の新校誕生に向けて大きな舵を取る時を迎えた。創立の原点に立ち戻り「子どもの願ひに応える魅力ある野沢南高校・新校創り」を期待する。

周年記念事業の折に全面修復を依頼した(株)ベヒシュタイン・ジャパンから尾山格氏を派遣して頂いた。尾山氏は10月4日に一日かけて、各パーツを磨き、アクション・ペダル・ネジ等の微調整、整音など、全面的に調律して下さった。「将来は調律師希望」という生徒は、何度も様子を見に来て、質問

た。H24年4月、生徒向けに修復記念コンサートと同窓会館で開いていただきました。ドイツ在住の大先輩、白井光子さんがそのピアノで歌い、トークもしてくださいました。美しい容姿と音色に魅了された。休み時間や放課後によくピアノの元へ通い、同窓会主催のリレーコンサートにも出場しました。卒業式直後に自分で企画し、先生方や親への感謝のコンサートも開きました。在学中そのピアノに一番多く触れていたのは間違いなく私だと思

式典パンフレットの作成

パンフレットは、式典当日、生徒を始め、参加者全員に配布した。



学校名表札と校章を設置

赤羽道人(鐘 旭孫) 教諭揮毫による標板の表札を、職員玄関入口に掲げることができた。



さらに職員玄関並びに生徒昇降口の上部へ校章を新たに設置した。



令和4年度

# 学校だより

## アントレプレナー教育焔

全日制教頭 橋爪 俊彦

「教頭先生、このポスターを生徒昇降口に貼ってもいいですか?」。本校の探究学習を推進している先生でした。「どんなポスターなの?」ということで見せてもらおうと、高校生が野沢商店街のお店とコラボして、期間限定で1日限定四十食のコーンポタージュを一九〇円で提供するというものです。むろん、その場でOKしました。

現在高校で行われている探究学習では、このような取り組みをしている高校がたくさんあります。いわゆる「アントレプレナー教育」です。アントレプレナー(entrepreneur)、聞きなれないことばですが「事業を起すこと」「起業家」の意味です。この教育を充実させようとする、と、ネットになるのが資金調達です。他県ではクラウドファンディングで集めているところもあるようですが、長野県では『信州「学び」応援寄付金』という、ふるさと納税制度を活用した母校応援制度がつくられます。学校名を指定して寄付できるので、「ぜひ母校を応援したい」という同窓生の皆さんがいらっしやいましたら、ご活用いただきたいと思います。よろしくお願いします。



〈教育実習生と語る会〉

## 定時制より

定時制教頭 倉坪 知之

新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらの学校生活は4年目をむかえています。その中で試行錯誤をしながら従来の活動をとり戻してきた1年だったように思います。鈴蘭祭では伝統の「ていじ喫茶」をオープンすることができたり、生活体験発表大会やクラスマッチなど、ほとんどの行事を開催することができました。感染対策等のノウハウが浸透していることに加え、創意工夫しながら実行しようとする生徒の姿勢が頼もしく感じられました。全日制110周年定時制70周年を迎えている本校ですが、形式的に伝統を守るということだけではなく、その本質を見極めながら、柔

軟かつ迅速な対応で教育活動を推進していくことの大切さを学んでいるように感じています。今後もし新型コロナウイルスだけではなく、生徒も取り巻く社会状況は平坦なものではありませんが、本校での学習活動を通して日々成長してほしいと願っています。

## 令和4年度卒業生の進路状況

進路指導係 宮内 孝明

令和2年4月の入学時からコロナ禍の高校生活であり、3年次にはコロナ感染症第7波第8波を挿い潜りながらの進路活動でした。オープンキャンパス等はオンライン形式が多く大学見学会も中止を余儀なくされるなど、大学を見ることがも知ることができず受験に臨みました。言葉にできない不安や焦燥感を感じた1年でした。コロナ感染症対策を十分に行い受験や就職活動を無難に終え報告できますことは幸いです。生徒にとりこの経験は人生の糧になるものと確信しています。

現実を直視しなければならぬことです。確かな学力とコミュニケーション力が求められている時代と言えます。

## 主な合格先

( )は過年度生で内数

- 〔大学〕(国公) 北見工業大・群馬大・静岡大(1)・信州大(1)・富山大(1)〔公立〕公立諏訪東京理科大2・長野県看護大・長野県立大・名寄市立大・前橋工科大
- 〔私立〕亜細亜大7(2)・大妻女子大・神奈川大5・金沢工大3・北里大(2)・杏林大7(2)・群馬大1
- パース大5・駒沢大2(1)・佐久大12・実践女子大・順天堂大・専修大・大東文化大9・帝京大6・東海大8・東京家政大・独協大4・二松学舎大2(1)・日本大3・フェリス学院大・文教大2(1)・法政大(1)・松本大・明治学院大2(1)他

## 〔全日制〕文化系

- 吹奏楽部 長野県吹奏楽コンクール 金賞
- 軽音楽部 長野県高文連軽音楽県フェスティバル ベスト8
- 長野県高校軽音楽系クラブ合同演奏会県大会 ベスト8(2バンド)
- 美術部 長野県高校美術展出品
- 書道部 長野県高校書道展出品
- 合唱同好会 長野県合唱サマーフエスティバル出場

## 〔定時制〕

- 長野県高等学校校定通総合体育大会
- バドミントン男子ダブルス優勝、3位、女子シングルス5位
- 全国定時制通信制体育大会
- 女子シングルス1名出場

## クラブ活動の記録

### 〔全日制〕運動系

- 北信越高等学校新人体育大会出場
- 陸上部(男子400m、男子4×400mR)

(東信大会は割愛し、県大会以上を掲載しました。ご了承ください。)

### 光創〜全校で創るひとつの輝き〜

（全日制生徒会長 金 棟鍋（3年））

今年度の生徒会のスローガンは「光創〜全校で創るひとつの輝き〜」です。生徒の笑顔が溢れる学校を創り、全校生徒の思いが込められた取り組みや行事を創っていくことを目指しています。

4年度、鈴蘭祭は、新型コロナウイルスの影響で、一般公開をかなり制限した中で実施しました。5年度は、一般公開に制限をかけずに、地域の方々や日頃からお世話になっている方々に来校して頂いて実施できることを願っています。コロナ感染症予防には最大限の注意を払い、過去の鈴蘭祭や他校の文化祭を参考に、内容や日程などを考えていきたいと思っています。

また、一人ひとりの熱い思いがぶつかり合うクラスマッチは、春と秋の2回実施したいと思えます。全・定合同で行う全校地域清掃もぜひ継続したいと思っています。「佐久新校再編実施計画懇話会」には、自分も含め、生徒会役員3名が出席しています。私たちは、新校に取り入れていきたいことなどを考え、一人ずつ意見を出しまし

た。これからも、新校が良い学校になるよう、私たちも考えていきたいと思っています。

### 開 花

（定時制生徒会長 今野 愛海（4年））

令和4年度は、2年ぶりに鈴蘭祭で定時制伝統の「てくじ喫茶」

が出版できました。感染症と隣り合わせの時代に沿ったやり方ではありましたが、定時制生徒全員で力を合わせて運営しました。また、秋のクラスマッチでは、昨年は行うことが叶わなかった団体競技である「ドッジビー」を行いました。どの学年にとっても初めての新競技で新鮮な気持ちで楽しむことができ、大変盛り上がりました。

全定合同の地域清掃では、今まで以上に多くの生徒が参加するなど、生徒会スローガンの「更始」を達成できたと思います。

昨年度は「更始」というスローガンの下、新しいことを取り入れてきました。5年度は「開花〜個々の花を満開に〜」をスローガンとして掲げました。ここには定時制の生徒全員が、個々の特技や個性を生かし、文化祭などの行事はもちろん、日々の学校生活をより良く、より楽しくしていきたい、そんな思いが込められています。生徒会でも様々な案を出し合い、一杯努力していくつもりです。

全てが不安定な今の時代でも、できるだけ、明るく楽しい思い出に満ちた、良い年になることを心から願い、生徒会活動を確実に進めていきたいと思っています。

### 共 煌〜輝け令和の青春〜

（全日制3年 鈴蘭祭実行委員長 峯村 泰牙）

私達は昨年度10月の就任直後から、鈴蘭祭に向けた準備を開始しました。第73回鈴蘭祭のテーマは「共煌〜輝け令和の青春〜」です。

前々回、前回とコロナウイルスの影響により制限ある状態での鈴蘭祭開催となってしまいました。今年度は、本来の鈴蘭祭に近い形での開催を目標としました。私達は、本来の鈴蘭祭を経験したことがなく、不安を抱えながらも、過去の資料や先生方の話を基に鈴蘭祭実行委員会でも何度も話し合い、鈴蘭祭の開催に向けて準備を進めていきました。

そして、7月1日、待ちに待った鈴蘭祭が始まりました。今年度の鈴蘭祭では、体育祭や合唱コンクール、一般公開など、2年間でできなかったこともでき、色々な行事がありました。コロナ対策に加え、暑さ対策も必要になりましたが、なんとか無事にやりきることができました。

多くの方に協力していただき、とても良い鈴蘭祭ができ、多くの生徒の笑顔を見ることができ、達成感を感じました。ありがとうございました。

最後に一言。お笑い芸人のカミナリが来たときは、驚きました！



〈修学旅行（広島）〉

### 修学旅行を振り返って

（全日制 吉田 翔（2年））

高校生の最大行事といったら、やはり修学旅行。初めて行く地を何を見てどんなことを思ったか、振り返ってみる。

修学旅行当日、早朝に目を覚まし、何度も忘れ物がないか確認して出発した。佐久平駅に着くと、

いつもはジャージを着ていたクラスメート達が、私服を着てお洒落をし、新幹線の到着をまだかまだかとうずうずしながら待っていた。

全生徒が集まり、朝の会で校長先生の話を聞き、いざ広島へ出発。東京駅で乗り換えをし、広島駅に到着。その後、路面電車に乗った。そこから見える長野とは違った広島

のきれいな街並みに感動した。原爆ドームに到着し、原爆の跡が生々しく残るドームを見た。思っていたほど大きくはなく、写真で見るとより小さいと思った。けれどサイズとは関係なしに、大きなインパクトを感じた。建物の

容姿がまさに悲惨そのもので、原爆がどれだけのひどいものであったか容易に想像できた。実際に原爆に遭われた方の講演をお聞きし、原爆資料館を見学した。当時の様子がはつきり伝わってくるお話や数々の資料を見て、今ある日常が当たり前ではないという事を認識でき、平和について考えることができた。

### 野沢南高等学校卒業生人材バンク登録フォーム

このフォームは、本校における「キャリア教育等の教育活動」で、在校生の進路実現を後押しして頂ける卒業生の方々にご登録をお願いするものです。「ようこそ先輩」などのご講演、インタビュー、職場体験等にご協力頂きますと幸いです。ご登録内容は同窓会事務局で管理いたします。ぜひお気軽にご登録ください。



### — キャリア教育 — 第18回「ようこそ先輩」講師

No	職業	氏名	卒回
1	会社員	水上 春香	高68
2	会社員	武 岬	高66
3	美容師	市川 智世	高49
4	助産師	大峽あかり	高67
5	看護師	秋和 彩花	高66
6	介護福祉士	佐藤 裕治	高54
7	理学療法士	石山 太郎	高68
8	公務員(理系)	小澤 利気	高58
9	公務員(文系)	小平 佳伸	高48
10	保育士	大塚 七星	高71
11	教員	柏木 優希	高58
12	警察官	小松 風雅	高71

### 令和5年度役員

名誉会長 中島 瑞枝	顧問 佐藤 三恵	会長 岡本とも子	副会長 箕輪なつ江	理事 鷹野 時子	校内理事 長田 芳子	支部長 春原 晃夫	理事 秋山加奈枝	理事 高畑 昭子	理事 花井千恵美	理事 井出恵理子	理事 神津 克彦	理事 村松さつき	理事 小糸みづ子	理事 山浦みづ子	理事 依田 茂子	理事 土屋 礼子	理事 角田 富重
川村ひとみ	篠原とよ子	油井 宏子	小林 一代	岩本 智子	三石 淑子	堀籠 恵	竹城恵美子	神部かほる	須田 幸枝	飯浜 弘江	高見沢孝一	高見澤正洋	山口 始	宮沢 秋三	高橋 洋子	柳沢 初男	田中 浩江
木内 良居	日下部俊介	森崎きよ江	田宮 貴子	山口 達之	小須田勝夫	関口 正浩	平林紀恵子	平林 明保	山中 弥生	黒岩 清子	北原富美子	関 和美	嘉瀬 貴江	中島 芳美	高橋 早苗	出嶋 裕子	栄 八千穂
井出はるみ	山口 始	相馬 里佳	小沢 西代	日向 美江	西澤 文江	磯貝 厚子	常田さおり	佐々木和子	榎山 利江	木内 良居	神津 厚子	土屋 英嗣	中山由紀子	荻原 幸恵	花里とみ子	佐藤 敏子	小林 恵美
中佐都	浅科	本牧布施	協和春日	立科	小諸西	小諸東	美南が丘	榊井沢	御代田	東御市	依田 蓮	上田	長野	松本	東京	関西	
甘利 康子	小松 朋子	飯島 延枝	中野 啓子	市川 洋子	大西 優子	佐藤 敏江	関 正枝	中山 淳子	柳沢 弘美	重田 行子	横山 清江	一之瀬信子	和田 行雄	田野 彌生	佐野 法子	佐野 泰子	

### 令和5年度 同窓会総会のご案内

日時 令和5年6月10日(土) 13:30～/受付13:00～

場所 佐久一万里温泉ホテル 4F TEL 0267-63-5551

- 内容 I 総会行事 13:30～14:10
- II 1 講演 14:20～15:50  
講師 市町村消費者行政推進員 大田真由美氏 (高29)  
演題 ～悪質業者はあなたを狙っている～  
「トラブルに巻き込まれないために」
- 2 生徒発表 16:00～16:30  
生徒会・「探究的な学び」の発表、作品展示(書道班・美術班)等
- III 懇親会 16:40～17:50

★会場準備の都合上、出席希望者は5月26日までに各支部長へご連絡ください。県外の方は直接同窓会事務局へ申し込んでください。

★「総会のご案内」は平成26年度より会報紙面での「ご案内」となりました。期日は6月第2土曜日を定例としています。会員相互でお声を掛け合い、大勢出席くださいますようお願いいたします。

同窓会事務局：月・木・金 13:00～16:00 開室  
TEL/FAX 0267-63-6646

### モンゴル政府オフナー・フレルスフ大統領から北極星勲章を受章

佐久市・モンゴル親善協会 会長 春原 晃夫 (野沢南高同窓会副会長) 2022年11月29日

春原晃夫氏(定12)は、モンゴル政府から外国人に授与される最高位の勲章「北極星勲章」を受章されました。春原氏のモンゴル発展への功績が高く評価されての受章は、同窓会にとりましても誇りとすところでもあります。荣誉を祝福し今後のご活躍を祈念いたします。なお春原氏は佐久市観光協会会長、定時制振興会長も歴任されています。



北極星勲章

### 長年のご尽力 ありがとうございます。

周年記念事業、佐久統合新校再編に誠心誠意ご尽力いただきました8名の役員の皆様が4年度をもちまして退任されました。

- 会長 中島 瑞枝 顧問 小澤あい子
- 副会長 岡本とも子、箕輪なつ江、鷹野 時子
- 校内理事 高橋 順子
- 理事 木村ゆき子、倉澤 純子



〈「語らい」の意見交換〉

### ご寄付ありがとうございます

大切にに使わせて頂きます

- 篠原 恵子様(高23) 10万円
- 三石 禮子様(高4) 10万円
- 高見沢多賀志様(高6) 6万円
- (敬)広瀬純子様(高3) 5万円

### 編集後記

周年記念式典当日は晴天に恵まれ、玄関前の大松の緑と楓の紅葉が輝き、お祝いの雰囲気を出してくれた。◇前日準備では、教職員、生徒、同窓生で全体会場、控室、放送設備、装飾等、祝意を醸す会場作りを力を合わせた。「手伝います」と言って花器を運んだり、高い所に布を張ってくれるなど積極的に行動をする生徒達に頼もしさを感じ、式典への士気の高まりと一体感を覚えた。◇コロナ感染防止対策は当日まで気が抜けず、校歌は生徒代表の独唱とし、1・2年生は教室でのリコート参加にする等の工夫をした。式典は、重厚さと感動の伝わる内容で終了した。◇思い起こせば、100年目からの10年間は、同窓生の交流が深まることを願って、支部の活性化、多様な研修「地域探訪」等、会員自らが行う活動に力を注いだ。中でも地域探訪では、支部の皆様の家内で美しい自然や歴史に触れることができ、楽しく実り多い活動であると好評を博している。◇6年後には佐久新校開校が予定されている。新しい施設、充実した教育内容、教育目標(両校の校風を融合させ新しい理念や理想)を掲げ、生徒、保護者、地域の方々にとって『魅力ある学校』の誕生を希望する。

最後に、お忙しい中ご寄稿頂きました皆様にご感謝申し上げます。

- 会報委員 箕輪なつ江 鷹野 時子
- 岡本とも子 高畑 昭子
- 神部かほる 山口 達之
- 井出恵理子 高橋 順子